

週間火山概況（平成 21 年 5 月 22 日 ～ 平成 21 年 5 月 28 日）

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（5 月 22 日～ 5 月 28 日）

発表日時	火山名	警報・予報	概要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 5 月 28 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 2（火口周辺規制）	浅間山、三宅島、桜島、薩摩硫黄島、 口永良部島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象 に関する海上警報	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道 駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、安達太良山、磐梯 山、那須岳、草津白根山、御嶽山、富士山、 箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、 霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山（5 月 28 日現在）

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

あさまやま

浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

27日01時41分頃、山頂火口でごく小規模な噴火が発生し、噴煙が火口縁上600mまで上がった。山麓で降灰は観測されなかった。噴火の発生は、5月3日のごく小規模な噴火以来である。

山頂火口からの噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。今期間火映は観測されていないが、依然として熱活動の高まった状態が続いていると推定される。

火山性地震及び火山性微動はやや多い状態が続いている。

GPSによる地殻変動観測では、2008年7月初め頃から深部へのマグマ貫入を示すわずかな伸びの傾向がみられている。

浅間山では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。なお、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

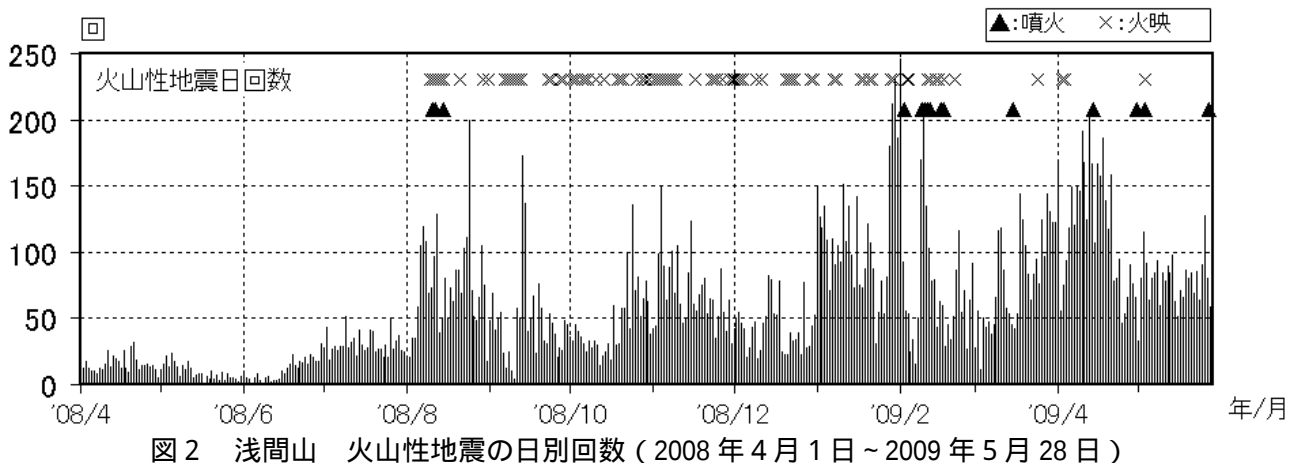


図2 浅間山 火山性地震の日別回数（2008年4月1日～2009年5月28日）

みやけじま

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね100～200mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

三宅村によると山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

いおうとう

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、国土地理院の観測によると、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

福岡ノ場^{ふくとくあかのば} [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

今期間、観測は行われなかった。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福岡ノ場では引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

桜島^{さくらじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

南岳山頂火口では 26 日に小規模な噴火が発生した。噴火に伴う噴煙の最高高度は火口縁上 1,600m であった。昭和火口では、今期間、噴火は観測されなかった。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続き、大隅河川国道事務所が有村観測坑道に設置している傾斜計の観測では、山体の膨張と考えられる特段の変化は認められない。

国土地理院の GPS 観測によると、始良カルデラ^{あいら}（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張は続いているが、桜島直下にマグマが新たに移動したことを示す地殻変動は観測されていない。

桜島では、引き続き南岳山頂火口及び昭和火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾（火山れき²⁾）にも注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

2) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

薩摩硫黄島^{さつまいおうじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね 100m で推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

口永良部島^{くちのえらぶじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

島内に設置した遠望カメラにより白色噴煙が時々観測され、噴煙高度は火口縁上 20～200m で推移した。

26 日から 27 日にかけて火山性地震が一時的にやや増加した。

GPS による地殻変動観測では、2008 年 9 月以降続いていた新岳火口浅部のわずかな膨張を示す変化は 2009 年 2 月以降鈍化している。

口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね 1 km の範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

諏訪之瀬島^{すわのせじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

御岳火口^{あたけ}では、今期間、小規模な噴火が時々発生した。これらの噴火に伴う噴煙の高さは火口縁上 800m であった。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、25 日及び 27 日に集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰が確認された。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、今後も御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒 または山麓厳重警戒
レベル4（避難準備）		入山危険
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	火口周辺危険
レベル2（火口周辺規制）		平常
レベル1（平常）	噴火予報	

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。